

国立がん研究センター中央病院で 病理診断のスペシャリストに！

診療科としての人材育成のポイント

病理診断科で全臓器の病理診断を経験することによって、病理専門医を取得し、高度な診断スキルの習得を目指します。希望する特定臓器における診断・研究の専門家を育成します。① 全臓器の病理診断を経験し、病理診断医としての高度なスキルを習得する。② 希望する臓器の専門家を目標し、特定臓器の診断・研究を継続的に行う。③ 臨床病理学的・分子病理学的研究を行い、学会発表・論文作成を行う。

当科の研修は、がん専門病院の特徴を活かした、次のものとなります。① 3か月単位で病理診断科内の全臓器をローテーションし、病理診断を行います。豊富な症例数と多数の病理指導医のもと、稀な腫瘍を含めて多数例の診断を経験することができます。② 各臓器の病理専門家が揃っており、特定臓器の専門家を目標することが可能です。③ 分子病理学的研究手法の指導を受け、研究者としてのスキルを習得できます。④ 院内の多数の病理-臨床カンファレンスをはじめ、国内学会発表・国際学会発表・英語論文作成などの学術活動を行います。

研修内容(全般)

各臓器ローテーション期間には、各臓器担当病理医の指導のもとで切り出しを行い、検鏡・ディスカッションを経て病理診断報告書を作成します。臨床医との術前術後カンファレンスにも参加します。在籍期間を通して、術中迅速診断、生検診断、剖検に参加します。術中迅速診断は年間約1500件と極めて多く、病理専門医試験受験資格取得のための症例経験数を容易にクリアすることができます。また剖検については、施設内外での剖検研修により必要経験数の達成が可能となっています。研究や症例報告など国内外の学会発表や英文論文の執筆も活発に行われており、研修中に指導医のきめ細やかなサポートのもとで学術活動を実践することも可能です。連携大学院制度を活用した学位取得も可能です。

専攻医コース(基幹型)(3年)

- 1年目：NCCでの病理研修
- 2年目：連携病院での病理研修
- 3年目：NCCでの病理研修の続き



取得可能

病理専門医
細胞診専門医

レジデント3年・2年コース

- 1-3を希望に応じて研究する。
- 1. がん病理診断技術の向上
- 2. 特定臓器の専門病理医を目指す。
- 3. 分子病理学的研究を行う。

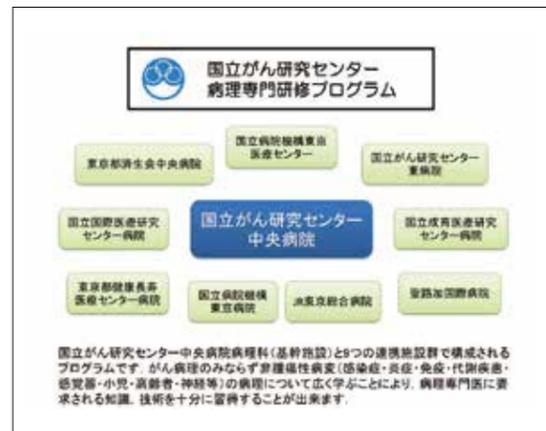
連携大学院制度を活用した学位取得

2023年の検体数

生検18,992件(うち術中迅速1,735件)、手術4,605件、細胞診11,011件、剖検15件

2024年レジデント在籍数

専攻医基幹型1名、レジデント3年コース4名、レジデント2年コース1名、レジデント短期コース1名



<レジデントの最近の卒後進路>

当センター、都立駒込病院、国立国際医療研究センター、防衛医科大学、中京病院、東京慈恵会医科大学、筑波大学、東京医療センター、札幌医科大学、広島大学、兵庫県立加古川病院、北海道大学、福岡大学、新潟大学、新潟市民病院、東京大学、JR東京総合病院、済生会川口総合病院、聖路加国際病院、埼玉県立がんセンター 他

研修に関するお問い合わせ先

教育担当：吉田 正行

masayosh@ncc.go.jp

基幹型専攻医を含め、制度が複雑であり、希望者は研修内容について申請前にご相談ください。

■プログラム

§ 推奨するコース

●レジデント3年コース

研修目的・内容	病理診断スキルの向上(細胞診専門医の取得を含む)、病理学的研究能力の向上を目的とする。特定臓器の専門病理医を目指す。3年間の院内研修(関連施設での研修も可能)で、全臓器の総合的な病理診断経験を積む。
研修期間・ローテーション	3年間：腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで全臓器の病理診断に携わる。特定臓器の病理診断を集中的に行い、より専門性を高めることも可能。臨床病理学的研究に携わることも可能。

●レジデント2年コース

研修目的・内容	病理診断スキルの向上(細胞診専門医の取得を含む)、病理学的研究能力の向上を目的とする。特定臓器の専門病理医を目指す。2年間の院内研修(関連施設での研修も可能)で、全臓器の総合的な病理診断経験を積む。
研修期間・ローテーション	2年間：腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで全臓器の病理診断に携わる。特定臓器の病理診断を集中的に行い、より専門性を高めることも可能。臨床病理学的研究に携わることも可能。

●専攻医コース(基幹施設型)

研修目的・内容	当科を基幹施設とした研修施設群で病理診断の研修を行い、病理専門医の取得を目指す。(オプション：細胞診専門医の取得)約2年間の院内研修、約1年間の連携施設での研修を通じて、全臓器の総合的な病理診断経験を積む。
研修期間・ローテーション	1年目および3年目：原則として院内研修。腫瘍診断を主体として、各臓器3か月単位のローテーションで全臓器の病理診断に携わる。2年目：原則として連携施設での研修。非腫瘍性疾患等の研修も行う。

§ 副次的なコース

●がん専門修練医コース

研修目的・内容	特定臓器の病理診断を集中的に行い、より専門性を高める。臨床病理学的研究に携わり、研究能力の向上、成果の発信を目指す。レジデントや専攻医の教育に関わる。
研修期間・ローテーション	2年間：希望する専門臓器を中心として病理診断に携わり、専門性を高める。専門領域の臨床病理学的研究を実施する。

●専攻医コース(連携施設型)

研修目的・内容	病理専門研修プログラムに則り、短期間の研修で基本的ながんの診療経験および希望臓器の病理診断経験を積むことを目標とする。
研修期間・ローテーション	原則3か月から6か月：腫瘍診断を主体として、病理診断に携わる。6か月を超える研修を希望する場合は要相談。

●レジデント短期コース

研修目的・内容	希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方を対象として目的に応じた病理研修を行う。大学病理部からの派遣として国がんの病理を見てみたいなど、有給短期研修を望む人のためのコースです。
研修期間・ローテーション	6か月～1年6か月：病理研修。

対象者、研修期間、CCM・緩和医療研修、交流研修等 病院全体で定められた基準は16-17ページを参照